

令和5年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

豊島高等学校の校訓である「克己」の精神に基づき、「自主・自律」の精神を育み、心豊かで、将来にわたり学び続ける自己教育力を備えた人物を育成することである。

- 1 将来の自己実現の志をしっかりと持たせ、新たな時代に対応する確かな学力と時代の変化に対応できる主体性や課題解決能力を身につけさせる
- 2 普通科専門コース制を有する学校として、各コースの特色を活かすとともに、生徒の多様な進路の実現に向け、キャリア教育の充実を図るとともに、地域との連携を推進しながら、探究的な学びを充実させ、創造力・思考力・発信力等の育成をめざす。
- 3 「Smile&Positive」、「あと一步、前に進もう」をスローガンに、笑顔を絶やさず常に前向きに何事にも取り組む人材の育成をめざす。

2 中期的目標

1 確かな学力の定着と学びの深化

(1) 主体的に学ぶ習慣の育成を図り、総合的な学力の向上を図る。

- ア 授業の準備と振り返りを常に行わせ、主体的に学ぶ態度を育成し、またそれを授業の評価・改善につなげる。
- イ 主体的・対話的で深い学びが行えるよう授業展開を工夫し、生徒の学習意欲を向上させ学習内容の定着を図る。また、グループワークやペアワーク、1人1台の端末を活用するなどして、協働的な学びを授業で実践していく。
- ウ 学力生活実態調査等を活用しながら、生徒の学びの習慣や学習への取り組み状況、学習到達度の推移を把握し、個人や家庭でできる学びと、授業の中でしかできない学びを整理して、指導法(シラバスの工夫や授業展開の方法等)を追究していく。
- エ 授業外の校内での学習活動の充実を図るため、図書室、進路自習室、進学特別ルーム(会議室)、アドバンス学習室(視聴覚室)の積極的な活用を行う。また、放課後や考査前の補習の機会を増やし、学習産業の教材も活用しながら効率的に自分に合った課題に取り組みさせて、学習習慣の定着、そして学力アップを図る。

※学校教育自己診断(生徒)「本校の授業で、『自分で考える力』が身についた」の肯定率を3年後に88%にする。(令和2年度67%、令和3年度69%、令和4年度81%) 同様に「本校の授業等で、『物事に対する理解力』が、以前より身に付いてきていると思う」の肯定率を3年後に88%にする。(令和2年度68%、令和3年度72%、令和4年度83%) 同様に「本校の授業では、自分で物事を調べ、発表する機会がある」の肯定率を3年後も90%以上を維持する。(令和2年度72%、令和3年度76%、令和4年度92%)

学力生活実態調査(2年生4月時点)で、生徒のゾーン占有率の低下をできるだけさせない。3年後にはBまでの人数の全体に対する割合を44%、同様にDの割合を10%以下とする。(Bまでの割合:令和2年度33%、令和3年度31%、令和4年度38%、Dの割合:令和2年度16%、令和3年度15%、令和4年度13%)

同(保護者)「子どもは授業が分かりやすく楽しいと言っている」(令和2年度45%、令和3年度45%、令和4年度53%)の肯定率を3年後に65%にする。

(2) 「個別最適な・協働的な学び」、「課題解決型の授業」の創造に取り組む。

- ア 様々な教科・科目で単元・題材等内容のまとまりや区切りの中で、パフォーマンス課題等に取り組みさせ、生徒に自分の学習状況を常に振り返らせ、グループワーク・班別討論～発表・相互評価活動に取り組みさせる。その中で様々なワークを取り入れた授業展開を行い、授業の中で「個別最適な・協働的な学び(主体的・対話的で深い学び)」の実践につなげていく。
- イ 観点別学習状況の評価を進めながら、計画・実践(指導)・評価・改善による検証を行い、指導と評価の一体化をすすめる。特に、主体的学びの評価の在り方について研究を進める。
- ウ ICT機器を効果的に活用しつつ、1人1台の端末の活用をさらに進める。また、コミュニケーションツールとしての活用等の推進に努める。

※学校教育自己診断における「本校の授業等で、『発表する力』(プレゼンテーション能力)が身に着いた」の肯定率を3年後に88%にする。(令和2年度61%、令和3年度67%、令和4年度80%) 同様に、「本校の授業等で、『相手とコミュニケーションする力』が身に着いた」の肯定率を3年後に90%以上にする。(令和2年度67%、令和3年度73%、令和4年度85%)

(3) 生徒の進路実現の支援

- ア 3年間の進路指導方針・計画を作成し、生徒の希望に合わせた進路指導および情報提供、進学講習等を計画的に実施し、早い段階での進路意識の醸成に努める。
- イ 校内における進学講習や補習および土曜日の活用など、夏季勉強合宿の継続及びone_day勉強合宿の拡充をめざす。
- ウ 外部模試の計画的・積極的な受験を推進し、生徒が自分の目標と到達度を的確に理解する指導体制を作る。
 - ※4年制大学進学率60%を維持する。
 - ※STEP UP CHALLENGE DAY(土曜勉強会)や夏季勉強合宿及びone_day勉強合宿の参加生徒数(9日間の延べ人数)を3年後に300名にする。(令和2年度:土曜講習35名、コロナのため合宿中止、令和3年度:土曜講習参加者34名、one_day勉強合宿120名、令和4年度:STEP UP CHALLENGE DAY(土曜勉強会)47名、夏季勉強合宿57名及びone_day勉強合宿149名)
 - ※学校教育自己診断(生徒)における「本校では、進路についての情報をよく知らせてくれる」の肯定率を3年後に88%以上にする。(令和2年度69%、令和3年度75%、令和4年度81%)

2 社会や様々な物事への興味・関心を高め、地域・大学・企業等との連携や多様な人材との連携・協働の中で、自らの将来を見据え人生を自ら切り拓いていく態度を育成する取組みの推進

(1) キャリアデザインについて考えさせる。

- ア 自分の人生・生き方・進路について「キャリアデザイン」を考えさせることを、「総合的な探究の時間」・「LHR」を活用して推進する。
- イ 入学から卒業までの段階を踏んだ計画に基づき、進路先の更にある職業意識を育成する。
- ウ 「総合的な探究の時間」の授業内容を充実させ、生徒の多様な進路の実現に向けた、実社会とつながるキャリア教育の充実を図るとともに、地域との連携を推進しながら、創造力・思考力・発信力等の育成を行う。
- エ 社会制度等への意識を高める。

社会情勢や社会全体の課題、そして政治への関心を高めるようLHR等を活用して、社会人としての意識を高める。

※学校教育自己診断(生徒)における「本校の授業等で、『発表する力』(プレゼンテーション能力)が身に着いた」の肯定率を3年後に88%以上にする。(令和2年度61%、令和3年度67%、令和4年度80%) 同様に、「本校の授業等で、『相手とコミュニケーションする力』が身についた」の肯定率を3年後に90%以上にする。(令和2年度67%、令和3年度73%、令和4年度85%)

「将来の進路や生き方について考える機会がある」の肯定率を3年後に90%以上にする。(令和2年度79%、令和3年度82%、令和4年度85%)

(2) 人権を尊重する意識・態度の育成と自己肯定感の醸成

ア 様々な分野・年齢の講師による講演等、計画的に人権教育を実施し豊かな心を育む教育を推進する。また、いじめを未然に防止し、早期に発見・解決するために、いじめに関する校内組織を中心に継続的・組織的に取り組む。

イ 学校行事・学年行事の企画・立案・運営に生徒が関わる機会を作り、達成感を感じられるよう取組みをすすめる。

ウ 授業等すべての活動において、集団活動を通して他者と望ましい人間関係・協働関係を構築できるようなカリキュラムをくむ。

※学校教育自己診断(生徒)「本校では、人権尊重や命の大切さについて学習する機会が多い」の肯定率を3年後も90%以上を維持する。(令和元年度77%、令和2年度77%、令和3年度82%、令和4年度91%)「本校入学後、自分は前より成長したと思う」の肯定率を3年後に90%以上を維持できるようにする。(令和2年度78%、令和3年度82%、令和4年度88%)

3 自主・自律の精神を養い、将来にわたり学び続ける自己教育力を備えた生徒の育成

(1) 社会性の育成、規範意識・マナーの向上に取り組む。

ア 時間管理(自己管理)の意識の向上を図ると同時に、授業のベル即開始を徹底する。

イ 毎日の登下校時及び毎授業時間の開始・終了時の挨拶の励行

ウ 「交通安全講習」、「薬物乱用防止」、「情報リテラシー・モラル」等を行い、社会性の育成に努める。特に情報や情報技術を適切かつ安全に活用していくための資質・能力を身に付けさせる。さらに、生徒が加害者にも被害者にもならないように取組みを行う。

エ 「挨拶」、「身だしなみ」、「規律」、「自転車のマナー」等に関する生徒の規範意識を高めるため、家庭との連携のもと、日常の学校生活のあらゆる場面において全ての教員が積極的に生徒に声をかけ指導する。また、学習環境の整備、自己管理・安全管理の指導を強化し、日常的な清掃活動にも取り組ませる。

学校教育自己診断(生徒)「学校生活について先生の指導には納得できる」(令和2年度54%、令和3年度58%、令和4年度68%)、(保護者)「本校の生徒指導の方針に共感できる」(令和2年度60%、令和3年度60%、令和4年度74%)、「本校の生活指導は、家庭との連携のもとに行われている」(令和2年度42%、令和3年度45%、令和4年度67%)の肯定率をそれぞれ3年後に80%にする。

(2) 課外活動で、地域社会との繋がりや多様な人との協働等により、将来にわたり学び続ける自己教育力を備えた生徒の育成に努める。

ア 生徒の心の教育をさらに推し進めるためにも、部活動の充実に努め、入学時のクラブ紹介、体験入部等の企画をさらに立案・計画し継続する。

イ 部活動だけでなく生徒会・クラス委員を中心とした様々な活動に取り組ませる。特に校内清掃だけでなく、校外の地域清掃に積極的に取り組ませる。

ウ 生徒会活動や学校行事のさらなる活性化に継続して取り組み、生徒が主体的に運営する機会を増やす。

エ 文化や習慣の違いを尊重する精神等を育むため、地域や大学等との連携した活動や交流(オンラインも含む)を促進する。

※学校教育自己診断の生徒「学校行事および部活動における平均肯定率」を3年後に88%にする。(令和2年度72%、令和3年度75%、令和4年度79%)

4 学校全体の課題を共有して、解決に向けて取り組む

(1) 分掌部会等の開催と他分掌や学年との連携を高める。

ア 業務の継承を行い、業務の効率化をすすめる。業務マニュアルの見直しを含めて総括を行い、次年度への改善点の洗い出しを行う。

イ 運営委員会等の既存組織を課題解決の中心として活用推進する。

ウ 分掌間、分掌と学年の連携を高めるため、スケジュールの共有や会議内容の共有を積極的に行う。

※学校教育自己診断の「本校では、様々な教育問題に対して、学校全体で日常的に話し合っている」肯定率を3年後に80%にする。

(2) 教員の働き方改革への取組みを推進

ア 業務分担の見直し、グループウェア等を活用した校務運営の効率化、一斉退庁日の実施を徹底する。

イ 様々な会議資料の事前配付により、会議の効率化、ペーパーレス化をさらにすすめる。

ウ 運営委員会や職員会議等に向けては、事前に検討課題を関係部署に提示して意見集約をしておき、検討～決定のプロセスをスムーズにし、見える化を図りながら会議の効率化をすすめる。

※職員会議の時間について50分以内を目標とする。

(3) 職員研修の充実と授業改善に向けた取組みに積極的に取り組む。

ア 「授業研究委員会(仮称)」を立ち上げ、授業公開や指導法研修等に学校全体として取り組む。

イ 1人1台端末のさらなる活用に取り組む。とくに授業のライブ配信・オンデマンド配信だけでなく、会議システムの活用についてもすすめていく。

ウ 校内の授業研究・研修の実施や周辺校との授業の相互見学・研修への取組みをすすめる。

エ また、生徒理解・対応等や多様性への対応、人権について研修に努める。

※学校教育自己診断(教員)「教科指導に関する教職員の連絡体制や研修体制が充実している」肯定率を3年後に75%にする。

(令和2年度53%、令和3年度35%、令和4年度64%)

学校教育自己診断(教員)「HR運営や生徒指導等について教職員の連絡体制や研修体制が充実している」肯定率を3年後に65%にする。

(令和2年度39%、令和3年度42%、令和4年度44%)

学校教育自己診断(生徒)の「本校の先生たちは、様々なこと(授業・部活・その他の仕事)に熱心に取り組んでいる」の肯定率を3年後には88%にする。(令和2年度70%、令和3年度69%、令和4年度80%)

(4) 広報活動と地域連携の充実

ア ホームページの全面改訂に伴い、適時更新などできるだけ多くの情報発信に努める。学校説明会や中学校との連携(中学校訪問など)をさらに充実させ、広報活動に取り組む。

イ 創立50周年を見据え、生徒・保護者・教員・同窓会等の連携体制を推進していく。

※学校教育自己診断(保護者)「本校は、教育活動の中身について、学年便りやホームページで情報提供している」の肯定率を3年後に90%以上にする。(令和2年度76%、令和3年度73%、令和4年度87%)

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和5年12月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>【学習指導等】</p> <p>・授業力の向上をめざし、授業見学月間の設定や研究授業、学習評価等に関する好事例の共有を行った。自己診断結果においては、生徒の「自分で物事を調べ発表する機会がある」「コンピュータやプロジェクターを活用している」の肯定率はそれぞれ</p>	<p>○ 第1回 令和5年6月12日(月)</p> <p>【学習指導等】</p> <p>・学びのアウトプットが大事である。</p> <p>・進学講習等を計画的に実現し、早い段階での進路意識の醸成を図るべき。</p>

<p>れ94.4%、95.7%となり、「自分で考える力が身についた」の肯定率は83.3%となった。(いずれも過去5年間で最高値)また、教員の「教材の精選や指導方法の工夫をしている」の肯定率は92.6%となり、昨年に比べ8.6%上昇した。</p> <p>・協働的な学びの実践に向けて、「総合的な探究の時間」で企業と連携した探究学習や発表を行った。自己診断結果においては、生徒の「発表する力が身に付いた」の肯定率は82.9%となり、昨年に比べ3.4%上昇した。一方、「将来の進路や生き方について考える機会がある」の肯定率は84.2%にとどまり、昨年に比べて0.3%下降した。この理由として、取り扱うテーマが本校生徒の状況に十分に合っていなかったことが考えられることから、次年度に向けてテーマや教材を工夫していく。</p> <p>【生徒指導等】</p> <p>・生徒の規範意識の醸成をめざし、改めて保護者に生活指導の方針を示すとともに、全教職員での指導体制に向けた呼びかけを行った。自己診断結果においては、生徒の「学校生活について先生の指導に納得できる」の肯定率は67.5%にとどまり、昨年に比べ0.4%下降したが、保護者の「生徒指導の方針に共感できる」の肯定率は74.2%となり、昨年に比べ0.5%上昇した。引き続き、ていねいな指導を心掛けていきたい。</p> <p>・今年度はコロナ禍における大きな制約は行わず、学校行事等を行うことができた。その結果、「学校行事等」に関する肯定率は生徒86.6%、保護者92.0%となり、昨年に比べそれぞれ7.0%、6.0%上昇した。</p> <p>・人権教育については、計画的に行うとともに、事象が発生した際には組織的に対応し、生徒への指導を行った。生徒の「人権教育や命の大切さについて学習する機会が多い」の肯定率は95.5%となり、目標を大きく上回った。</p> <p>【学校運営】</p> <p>・会議の効率化をめざすとともに、「てしまミーティング」を開催し、校内課題や専門コースのあり方について、教員間で話し合う機会を作った。自己診断結果においては、生徒の「先生たちは様々なこと(授業・部活・他)に熱心に取り組んでいる」の肯定率は84.2%となり、目標を大きく上回った。</p> <p>・今年度から「さくら連絡網」を活用し、保護者向け連絡を週2回以上行うとともに、学校ホームページを定期的に更新した。一方で、保護者の「情報発信」に関する満足度は下降したことから、次年度は自己診断の項目(問い方)の見直しを図る。</p>	<p>・学習アプリの導入はいい取組み。応用力をつける工夫ができればよい。一方、やる生徒とやらない生徒の差が出てくる。取り組んでいない生徒に声かけをしながらやるように進めていくことが公教育では必要。</p> <p>・授業研究委員会の立ち上げはよい。</p> <p>・動画やデータの共有で学べるのは自学的に学べる生徒であり、苦手な生徒へのフォローが必要。生徒を巻き込んで教え合いを行っていくことが大事。</p> <p>【学校経営】</p> <p>・教員の同僚性の育成や業務のスクラップを行っていくといった方針に賛成。指標に共感することが多かった。</p> <p>・限られた時間で先生たちが頑張っていることがわかった。生徒のことも大事だが、先生たちのケアや育成ができる時間があれば良い。働き方改革といわれている中、業務を整理し専門的な勉強ができる時間がとれるようになればよい。</p> <p>・業務のスリム化や効率化については、重要度、緊急度、かかるコストなどを考えて行うとよい。外部の考えを取り入れて検討するのがよい。</p> <p>○ 第2回 令和5年11月13日(月)</p> <p>【授業見学を終えて】</p> <p>・生徒が興味を持つテーマを取り上げている授業はよかった。</p> <p>・少人数授業は、生徒の状況を把握しやすくメリットがあると思う。</p> <p>・先生も生徒ものびのびと授業に取り組んでいた印象がある。</p> <p>・時代を担う生徒たちには、国語力をしっかりつけてほしい。</p> <p>○ 第3回 令和6年2月27日(火)</p> <p>【令和5年度学校評価】</p> <p>異議なし</p> <p>【令和6年度学校経営計画】</p> <p>計画及び指標が整理されて見やすくなった。</p> <p>異議なし</p>
---	---

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R4年度値]	自己評価
1 確かな学力の定着と学びの深化	<p>(1) 主体的に学ぶ習慣の育成を図り、総合的な学力の向上を図る。</p> <p>ア 主体的に学ぶ態度を育成 授業の評価・改善</p> <p>イ 主体的・対話的で深い学びが行える授業展開の工夫 学習意欲向上</p> <p>ウ 個人や家庭でできる学びと授業でしかできない学びを整理する。</p> <p>エ 授業外の校内での学習活動の充実</p>	<p>(1) 主体的に学ぶ習慣の育成を図り、総合的な学力の向上を図る。</p> <p>ア 授業の準備と振り返りを常に行わせ、主体的に学ぶ態度を育成し、またそれを授業の評価・改善につなげる。</p> <p>イ グループワークやペアワーク、1人1台の端末を活用するなどして、協働的な学びを授業で実践していく。</p> <p>ウ 学力生活実態調査等を活用しながら、生徒の学びの習慣や学習への取り組み状況、学習到達度の推移を把握し、個人や家庭でできる学びと授業の中でしかできない学びを整理して、指導法(シラバスの工夫や授業展開の方法等)を追究していく。</p> <p>エ 授業外の校内での学習活動の充実を図るため、図書室、進路自習室、進学特別ルーム(会議室)、アドバンス学習室(視聴覚室)の積極的な活用を行う。また、放課後や考査前の補習の機会を増やし、学習産業の教材も活用しながら効率的に自分に合った課</p>	<p>ア・学校教育自己診断(生徒)「本校の授業を十分に理解するためには、予習や復習が必要である。」の肯定率を80%[77.9%]にする。</p> <p>イ・学校教育自己診断(生徒)「本校の授業で、『自分で考える力』が身についた」の肯定率を83%[81.2%]にする。</p> <p>・同じく「本校の授業等で、「物事に対する理解力」が、以前より身に付いてきていると思う」の肯定率を85%[83.4%]にする。</p> <p>・「本校の授業では、自分で物事を調べ、発表する機会がある」の肯定率90%以上を維持する。[91.6%]</p> <p>・また、学校教育自己診断(保護者)「子どもは授業が分かりやすく楽しいと言っている」の肯定率を55%[53.0%]にする。</p> <p>ウ・学力生活実態調査(2年生4月時点)で、生徒のゾーン占有率の低下をできるだけさせない。3年後にはBまでの人数の全体に対する割合を44%、同じくDの割合を10%以下とする。(Bまでの割合:令和2年度33%、令和3年度31%、令和4年度38%)、(Dの割合:令和2年度16%、令和3年度15%、令和4年度13%)</p> <p>エ・学校教育自己診断(生徒)「本校では、授業以外にも、補習や講習が充実している」の肯定率を80%にする。[78.3%]</p>	<p>ア・学校教育自己診断(生徒)「本校の授業を十分に理解するためには、予習や復習が必要である。」の肯定率は77.1%にとどまった。次年度は授業研究委員会において授業の在り方に関する協議を深め、改善を図りたい。(△)</p> <p>イ・学校教育自己診断(生徒)「本校の授業で、『自分で考える力』が身についた」の肯定率は83.3%で目標達成。(○)</p> <p>・「本校の授業等で、「物事に対する理解力」が、以前より身に付いてきていると思う」の肯定率は84.7%で昨年度よりも向上したが、目標達成はできなかった。(△)</p> <p>・「本校の授業では、自分で物事を調べ、発表する機会がある」の肯定率は94.4%で目標の90%以上を維持できた。(◎)</p> <p>・学校教育自己診断(保護者)「子どもは授業が分かりやすく楽しいと言っている」の肯定率は53.1%で昨年度よりも向上したが、目標達成はできなかった。(△)</p> <p>ウ・ゾーン占有率について、Bまでの人数の全体に対する割合は27.8%、同じくDの割合は14.6%となり、昨年度同時期から後退した。(△)</p> <p>エ・学校教育自己診断(生徒)「本校では、授業以外にも、補習や講習が充実している」の肯定率は78.9%で昨年度よりも向上したが、目標達成はできなかった。(△)</p>

	<p>(2)「個別最適な・協働的な学び」、「課題解決型の授業」の創造に取り組む。</p> <p>ア パフォーマンス課題への取組授業の中で「個別最適な・協働的な学び(主体的・対話的で深い学び)」の実践</p> <p>イ 指導と評価の一体化をすすめる。特に、主体的学びの評価の在り方について研究を進める。</p> <p>ウ 1人1台端末の活用をさらに進める。</p> <p>(3) 生徒の進路実現の支援</p> <p>ア 3年間の進路指導方針・計画の作成 早い段階での進路意識の醸成に努める。</p>	<p>題に取り組ませて、学習習慣の定着、そして学力アップを図る。</p> <p>ア 様々な教科・科目で単元・題材等内容のまとまりや区切りの中で、パフォーマンス課題等に取り組み、生徒に自分の学習状況を常に振り返らせ、グループワーク・班別討論～発表・相互評価活動に取り組ませる。その中で様々なワークを取り入れた授業展開を行い、授業の中で「個別最適な・協働的な学び(主体的・対話的で深い学び)」の実践につなげていく。</p> <p>イ 観点別学習状況の評価を進めながら、計画・実践(指導)・評価・改善による検証を行い、指導と評価の一体化をすすめる。特に、主体的学びの評価の在り方について研究を進める。</p> <p>ウ ICT 機器を効果的に活用しつつ、1人1台端末の活用をさらに進める。また、コミュニケーションツールとしての活用等の推進に努める。</p> <p>ア 3年間の進路指導方針・計画の作成し、進路希望に合わせた進路指導および情報提供、進学講習等を計画的に実施し、早い段階での進路意識の醸成に努める。</p>	<p>ア・学校教育自己診断(生徒)における「本校の授業等で、『発表する力』(プレゼンテーション能力)が身に着いた」の肯定率を82%[79.5%]、</p> <p>・同様に、「本校の授業等で、『相手とコミュニケーションする力』が身に着いた」の肯定率を87%[84.5%]にする。</p> <p>イ・学校教育自己診断(生徒)「本校での学習評価(成績)は、テストの得点以外の部分(観点)からも評価されていると思う」の肯定率を88%にする。[85.7%]</p> <p>ウ・学校教育自己診断(生徒)「本校の授業(実習・演習を含む)では、コンピュータやプロジェクターを活用している」の肯定率95%にする。[93.3%]</p> <p>ア・4年制大学進学率60%を維持する。</p> <p>・学校教育自己診断における「本校では、進路についての情報をよく知らせてくれる」の肯定率を83%にする。[80.6%]</p>	<p>ア・学校教育自己診断(生徒)における「本校の授業等で、『発表する力』(プレゼンテーション能力)が身に着いた」の肯定率は82.9%で目標達成。(○)</p> <p>・「本校の授業等で、『相手とコミュニケーションする力』が身に着いた」の肯定率は86.3%で昨年度よりも向上したが、目標達成はできなかった。(△)</p> <p>イ・学校教育自己診断(生徒)「本校での学習評価(成績)は、テストの得点以外の部分(観点)からも評価されていると思う」の肯定率は87.8%で目標達成はできなかったが、数値が高止まりしている中で、昨年度よりも2.1%向上した。(○)</p> <p>ウ・学校教育自己診断(生徒)「本校の授業(実習・演習を含む)では、コンピュータやプロジェクターを活用している」の肯定率は95.7%で目標達成。(○)</p> <p>ア・4年制大学進学率66.9%で目標達成。(○)</p> <p>・学校教育自己診断における「本校では、進路についての情報をよく知らせてくれる」の肯定率は80.6%で現状維持となり、目標達成はできなかった。(△)</p>
	<p>イ 進学講習や補習の充実 夏季勉強合宿の継続及びone_day勉強合宿の拡充</p> <p>ウ 外部模試の計画的・積極的な受験を推進</p>	<p>イ 校内における進学講習や補習および土曜日の活用など、夏季勉強合宿の継続及びone_day勉強合宿の拡充をめざす。</p> <p>ウ 外部模試の計画的・積極的な受験を推進し、生徒が自分の目標と到達度を的確に理解する指導体制を作る。</p>	<p>イ・土曜講習や夏季勉強合宿及びone_day勉強合宿の参加生徒参加数(9日間のべ人数)220名を目標とする。(令和2年度土曜講習35名コロナのため合宿中止、令和3年度土曜講習参加者34名、one_day勉強合宿120名、令和4年度STEP UP CHALLENGE DAY(土曜勉強会)47名、夏季勉強合宿57名、One Day勉強合宿149名)</p>	<p>イ・STEP UP CHALLENGE DAY(土曜勉強会)50名、夏期勉強合宿31名、One Day勉強合宿33名(6月・7月・11月・12月)にとどまった。次年度は進路部が主体となり生徒への啓発を行うなど、改善を図る。(△)</p> <p>ウ・7月末に外部講師による進学講習会、8月初旬に勉強合宿を実施した直後に、外部模試を実施するという流れを昨年度から構築した。その結果、50名以上の生徒が目標と意欲を持って参加し、取り組むことができた。</p>

<p>2 社会や様々な物事への興味・関心を広げ、地域・大学・企業等との連携や多様な人材との連携・協働の中で、自らの将来を見据え人生を自ら切り拓いていく態度を育成する取組みの推進</p>	<p>(1) キャリアデザインについて考えさせる。 ア キャリアデザインを考えさせる。 イ 進路先の更に先にある職業意識を育成 ウ 「総合的な探究の時間」の授業充実からキャリア教育の充実、地域連携を推進し、創造力・思考力・発信力等の育成を行う。 エ 社会制度等への意識を高める。 オ 英語4技能の育成 (2) 人権を尊重する意識・態度の育成と自己肯定感の醸成 ア 人権教育の推進 いじめ未然防止、早期発見・解決 イ 生徒の自治活動の支援 ウ 集団活動を通して望ましい人間関係・協働関係を構築</p>	<p>ア 自分の人生・生き方・進路について「キャリアデザイン」を考えさせることを、「総合的な探究の時間」・「LHR」を活用して推進する。 イ 入学から卒業までの段階を踏んだ計画に基づき、進路先の更に先にある職業意識を育成する。 ウ 「総合的な探究の時間」の授業内容を充実させ、生徒の多様な進路の実現に向けた、実社会とつながるキャリア教育の充実を図るとともに、地域との連携を推進しながら、創造力・思考力・発信力等の育成を行う。 エ 社会制度等への意識を高め社会情勢や社会全体の課題、そして政治への関心を高めるよう LHR等を活用して、社会人としての意識を高める。 オ 国際共通語として中心的な役割を果たしている英語の4技能(聞く・話す・読む・書く)をバランスよく育成する。 ア 様々な分野・年齢の講師による講演等、計画的に人権教育を実施し豊かな心を育む教育を推進する。また、いじめを未然に防止し、早期に発見・解決するために、いじめに関する校内組織を中心に継続的・組織的に取り組む。 イ 学校行事・学年行事の企画・立案・運営に生徒が関わる機会を作り、達成感を感じられるよう取組みをすすめる。 ウ 学校における授業をはじめとするすべての活動において、集団活動を通して他者と望ましい人間関係・協働関係を構築できるような計画をくむ。</p>	<p>ア・イ ・学校教育自己診断(生徒)「将来の進路や生き方について考える機会がある」の肯定率を87%にする。[84.5%] ウ・エ・オ ・学校教育自己診断(生徒)「本校入学後、自分は前より成長したと思う」の肯定率90%以上を維持する。[87.9%]。 ・同「本校の授業で、『自分で考える力』が身についた」の肯定率を83%にする。[81.2%] ア・学校教育自己診断(生徒)「本校では、人権尊重や命の大切さについて学習する機会が多い」の肯定率を3年後も90%以上を維持する。[91.1%] イ・ウ ・学校教育自己診断(生徒)「本校で、かけがえのない友人に会えた」の肯定率90%以上にする。[91.7%]</p>	<p>ア・イ ・学校教育自己診断(生徒)「将来の進路や生き方について考える機会がある」の肯定率は84.2%にとどまった。次年度は、「総合的な探究の時間」の充実を図り、改善をめざしたい。(△) ウ・エ・オ ・学校教育自己診断(生徒)「本校入学後、自分は前より成長したと思う」の肯定率は89.7%となり、目標には届かなかった。しかし、数値が高止まりしている中で昨年度に比べ1.8%増加した。(○) ・同「本校の授業で、『自分で考える力』が身についた」の肯定率は83.3%で目標達成。(○) ア・学校教育自己診断(生徒)「本校では、人権尊重や命の大切さについて学習する機会が多い」の肯定率は95.5%となり、目標を大きく上回った。(◎) イ・ウ ・学校教育自己診断(生徒)「本校で、かけがえのない友人に会えた」の肯定率93.2%となり、目標を大きく上回った。(◎)</p>
--	--	--	--	--

府立豊島高等学校

<p>3 自主・自律の精神を養い、将来にわたり学び続ける自己教育力を備えた生徒の育成</p>	<p>(1) 社会性の育成、規範意識・マナーの向上に取り組む。 ア 時間管理（自己管理）の意識向上 イ 毎日の登下校時及び毎授業時間の開始・終了時の挨拶の励行 ウ 社会性の育成 特に情報や情報技術の安全な活用 エ 家庭との連携のもと、生活面の指導を行う。</p> <p>(2) 課外活動で、地域社会との繋がりや多様な人との協働等により、将来にわたり学び続ける自己教育力を備えた生徒の育成に努める。 ア 部活動の充実 イ 生徒会・クラス委員の様々な活動の充実 ウ 生徒会活動や学校行事のさらなる活性化 エ 文化や習慣の違いを尊重する精神等を育む。</p>	<p>ア 時間管理（自己管理）の意識の向上を図ると同時に、授業のベル即開始を徹底する。 イ 毎日の登下校時及び毎授業時間の開始・終了時の挨拶の励行 ウ 「交通安全講習」、「薬物乱用防止」、「情報リテラシー・モラル」等を行い、社会性の育成に努める。特に情報や情報技術を適切かつ安全に活用していくための資質・能力を身につけさせる。さらに、生徒が加害者にも被害者にもならないように取組みを行う。 エ 「挨拶」・「身だしなみ」・「規律」・「自転車のマナー」等に関する生徒の規範意識を高めるため、家庭との連携のもと、日常の学校生活のあらゆる場面において全ての教員が積極的に生徒に声をかけ指導する。また、学習環境の整備、自己管理・安全管理の指導を強化し、日常的な清掃活動にも取り組ませる。</p> <p>ア 生徒の心の教育をさらに推し進めるためにも、部活動の充実に努め、入学時のクラブ紹介、体験入部等の企画をさらに立案・計画し継続する。 イ 部活動だけでなく生徒会・クラス委員を中心とした様々な活動に取り組ませる。特に校内清掃だけでなく、校外の地域清掃に積極的に取り組ませる。 ウ 生徒会活動や学校行事のさらなる活性化に継続して取組み、生徒が主体的に運営する機会を増やす。 エ 文化や習慣の違いを尊重する精神等を育むため、地域や大学等との連携した活動や交流（オンラインも含む）を促進する。</p>	<p>ア・イ・ウ・エ ・学校教育自己診断（生徒）「学校生活について先生の指導には納得できる」の肯定率を70% [67.9%] にする。 ・同（保護者）「本校の生徒指導の方針に共感できる」の肯定率を76% [73.7%] にする。 ・同（保護者）「本校の生活指導は、家庭との連携のもとに行われている」の肯定率を69% [67.2%] にする。 ・学校教育自己診断（保護者）「本校は清掃が行き届き、生徒の生活環境が整っている」における肯定率」を68% [65.9%] にする。 ・学校教育自己診断（保護者）「学校教育の教育活動や取組みについて、本校は子どもに命を大切に心やルールを守る態度を養おうとしている」の肯定率を76% [73.9%] にする。</p> <p>ア・イ・ウ・エ ・学校教育自己診断（生徒）「学校行事および部活動における平均肯定率」を81% [79.4%] にする。 ・学校教育自己診断（保護者）「学校行事および部活動における平均肯定率」を85% [82.6%] にする。</p>	<p>ア・イ・ウ・エ ・学校教育自己診断（生徒）「学校生活について先生の指導には納得できる」の肯定率67.5%にとどまった。(△) ・同（保護者）「本校の生徒指導の方針に共感できる」の肯定率は74.2%で目標達成はできなかったが、全校体制での生徒指導に取り組み、昨年度よりも向上した。(○) ・同（保護者）「本校の生活指導は、家庭との連携のもとに行われている」の肯定率を66%にとどまった。(△) ・学校教育自己診断（保護者）「本校は清掃が行き届き、生徒の生活環境が整っている」における肯定率」は66.3%で昨年度よりも向上したが、目標達成はできなかった。(△) ・学校教育自己診断（保護者）「学校教育の教育活動や取組みについて、本校は子どもに命を大切に心やルールを守る態度を養おうとしている」の肯定率は74.5%で昨年度よりも向上したが、目標達成はできなかった。(△)</p> <p>ア・イ・ウ・エ ・学校教育自己診断（生徒）「学校行事および部活動における平均肯定率」は83.3%となり、目標を大きく上回った。(◎) ・学校教育自己診断（保護者）「学校行事および部活動における平均肯定率」は86.3%となり目標達成。(◎)</p>
<p>4 学校全体の課題を共有して、解決に向けて取り組む</p>	<p>(1) 分掌部会等の開催と他分掌や学年との連携を高める。 ア 業務の継承、業務効率化について検討をすすめる。 業務マニュアルの見直し 改善点の洗い出し イ 運営委員会等の既存組織を課題解決の中心として活用推進 ウ 分掌間、分掌と学年の連携を高める。</p> <p>(2) 教員の働き方改革への取組みを推進 ア 業務分担の見直し、グループウェア等を活用した校務運営の効率化、一斉退庁日の実施等を徹底する。 イ 会議の効率化</p>	<p>ア 業務の継承を行い、業務の効率化について検討をすすめる。業務マニュアルの見直しを含めて総括を行い、次年度への改善点の洗い出しを行う。 イ 運営委員会等の既存組織を課題解決の中心として活用推進する。 ウ 分掌間、分掌と学年の連携を高めるため、スケジュールの共有や会議内容の共有を積極的に行う。</p> <p>ア 業務分担の見直し、グループウェア等を活用した校務運営の効率化、一斉退庁日の実施等を徹底する。 イ 様々な会議資料の事前配付により、会議の効率化、ペーパーレス化をさらにすすめる。</p>	<p>ア・イ・ウ ・学校教育自己診断の「本校では、教育活動に対して、教職員で日常的に話し合っている」肯定率を66% [64%] にする。 ・学校教育自己診断（生徒）の「本校の先生たちは、様々なこと（授業・部活・その他の仕事）に熱心に取り組んでいる」の肯定率を82% [80.1%] にする。</p> <p>ア・残業時間の総時間数5%以上の時間削減を目標とする。[23,285時間] イ・ウ ・運営委員会や職員会議等の時間について50分以内を目標とすることを継続する。</p>	<p>ア・イ・ウ ・学校教育自己診断の「本校では、教育活動に対して、教職員で日常的に話し合っている」肯定率は59.3%にとどまった。(△) ・学校教育自己診断（生徒）の「本校の先生たちは、様々なこと（授業・部活・その他の仕事）に熱心に取り組んでいる」の肯定率は84.2%となり、目標を大きく上回った。(◎)</p> <p>ア・残業時間の総時間数は23,198時間となり、昨年に比べ減少したが、目標達成はできなかった。(△)</p> <p>イ・ウ ・概ね50分以内で行うことができた。(○)</p>

<p>ウ 検討～決定のプロセスをスムーズにし、見える化を図る。</p> <p>(3) 職員研修の充実と授業改善に向けた取り組みに積極的に取り組む。</p> <p>ア 1人1台端末のさらなる活用に取り組む。</p> <p>イ 授業研究・研修の実施</p> <p>ウ 生徒理解、多様性への対応、人権について研修に努める。</p> <p>(4) 広報活動と地域連携の充実</p> <p>ア 広報活動・情報発信に努める 学校説明会や中学校との連携をさらに充実させる。</p> <p>イ 創立50周年を見据え、生徒・保護者・教員・同窓会等の連携体制を推進していく。</p>	<p>ウ 運営委員会や職員会議等に向けては、事前に検討課題を関係部署に提示して意見集約をしておき、検討～決定のプロセスをスムーズにし、見える化を図りながら会議の効率化をすすめる。</p> <p>ア 1人1台端末のさらなる活用に取り組む。とくに授業のライブ配信・オンデマンド配信だけでなく、会議システムの活用についてもすすめていく。</p> <p>イ 校内の授業研究・研修の実施や周辺校との授業の相互見学・研修への取り組みをすすめる。</p> <p>ウ また、生徒理解・対応等、多様性への対応、人権について研修に努める。</p> <p>ア ホームページの全面改訂に伴い、適時更新などできるだけ多くの情報発信に努める。学校説明会や中学校との連携(中学校訪問など)をさらに充実させ、広報活動に取り組む。</p> <p>イ 創立50周年を見据え、生徒・保護者・教員・同窓会等の連携体制を推進していく。</p>	<p>ア・学校教育自己診断(生徒)「本校は生徒1人1台端末を効果的に活用している」の肯定率88%[85.7%]にする。</p> <p>イ・学校教育自己診断(教員)「本校では、教科指導に関する教職員間の連絡体制や研修体制が充実している」肯定率を66%[64%]にする。</p> <p>ウ・学校教育自己診断(教員)「HR運営や生徒指導等について教職員の連絡体制や研修体制が充実している」肯定率を46%[44%]にする。</p> <p>・学校教育自己診断(生徒)「本校に入学して良かったと思う」の肯定率を87%にする。[85.3%]</p> <p>・同「本校でのクラスは、自分にとって落ち着ける場所である」の肯定率を81%[79.2%]にする。</p> <p>ア・学校教育自己診断(保護者)「本校は、教育活動の中身について、学年便りやホームページで情報提供している」の肯定率を89%以上[87.4%]にする。</p> <p>・学校教育自己診断(保護者)「本校は教育情報について、提供の努力をしている」の肯定率を88%[85.9%]にする。</p> <p>イ・50周年記念行事委員会を立ち上げ、月1回の会議を開き、すすめていく。</p>	<p>ア・学校教育自己診断(生徒)「本校は生徒1人1台端末を効果的に活用している」の肯定率は89.2%となり目標達成。(◎)</p> <p>イ・学校教育自己診断(教員)「本校では、教科指導に関する教職員間の連絡体制や研修体制が充実している」肯定率は59.3%にとどまった。(△)しかし、学校全体の授業改善に向けた取り組みは進んでおり、学校教育自己診断(教員)「教材の精選や指導方法の工夫をしている」肯定率は、昨年比で8.6%上昇している。</p> <p>ウ・学校教育自己診断(教員)「HR運営や生徒指導等について教職員の連絡体制や研修体制が充実している」肯定率は55.6%となり、目標を大きく上回った。(◎)</p> <p>・学校教育自己診断(生徒)「本校に入学して良かったと思う」の肯定率は86.3%で昨年度よりも向上したが、目標達成はできなかった。(△)</p> <p>・同「本校でのクラスは、自分にとって落ち着ける場所である」の肯定率は82.8%となり目標達成。(○)</p> <p>ア・学校教育自己診断(保護者)「本校は、教育活動の中身について、学年便りやホームページで情報提供している」の肯定率は83.6%にとどまった。(△)</p> <p>・学校教育自己診断(保護者)「本校は教育情報について、提供の努力をしている」の肯定率は81.7%にとどまった。(△)</p> <p>イ・50周年記念行事に向けて、計画的に準備を進めている。(○)</p>
---	--	--	---